

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 1 月 28 日 (2021.1.28)

【公表番号】特表 2018-527986(P2018-527986A)

【公表日】平成 30 年 9 月 27 日 (2018.9.27)

【年通号数】公開・登録公報 2018-037

【出願番号】特願 2018-508211(P2018-508211)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/90 (2006.01)

A 6 1 B 17/70 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/90

A 6 1 B 17/70

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 2 年 12 月 11 日 (2020.12.11)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

脊椎手術用の装置であって、

前記装置は、1 つの案内スリーブ (3) と、1 つの拡張器 (4) とを備え、

前記案内スリーブ (3) の内輪郭に対応する外輪郭を有する前記拡張器 (4) が前記案内スリーブ (3) 内に配置され、前記拡張器 (4) を介して前記案内スリーブ (3) はスライドされ、

前記案内スリーブ (3) は非シリンダ状の外套 (3.1) を有し、

前記非シリンダ状の外套 (3.1) は、前記非シリンダ状の外套 (3.1) の長手軸に垂直な断面において互いに対向する 2 つの長辺 (3.3、3.4) と前記 2 つの長辺 (3.3、3.4) を接続する 2 つの短辺 (3.5、3.6) を有し、前記 2 つの長辺 (3.3、3.4) は前記 2 つの短辺 (3.5、3.6) よりも幅が大きく、

前記 2 つの長辺 (3.3、3.4) の一方は平坦であり、もう一方は外方に向かって凸状に湾曲しており、

前記 2 つの長辺 (3.3、3.4) と前記 2 つの短辺 (3.5、3.6) との間の移行部の曲率半径は、3 から 4.5 mm の間である、  
ことを特徴とする装置。

【請求項 2】

外に向かって凸状に湾曲している前記長辺 (3.3、3.4) の一方は、11 から 12.5 mm の曲率半径 (R) を有する、ことを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記短辺 (3.5、3.6) は遠位に、前記長辺 (3.3、3.4) を超えて突き出る突起 (3.7) を有する、ことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の装置。

【請求項 4】

前記突起 (3.7) は、前記案内スリーブ (3) の自由端部に向かって先細になっており、前記自由端部において丸められている、ことを特徴とする請求項 3 に記載の装置。

【請求項 5】

前記短辺 (3.5、3.6) は、前記長辺 (3.3、3.4) よりも大きな厚さを有し

、好ましくは前記長辺（３．３、３．４）の厚さは０．８mmから１．２mmであり、および／または前記短辺（３．５、３．６）の厚さは１．２mmから１．７mm超である、ことを特徴とする請求項１から４のいずれか一項に記載の装置。

【請求項６】

前記案内スリーブ（３）は、前記案内スリーブ（３）の長手軸に対して垂直に延在する溝（４．２）を、前記案内スリーブ（３）の外側の近位領域の前記短辺（３．５、３．６）に有する、ことを特徴とする請求項１から５のいずれか一項に記載の装置。

【請求項７】

前記案内スリーブ（３）の外側の近位領域の２つの前記短辺（３．５、３．６）に互いに対向する開口部（３．９）を有する、ことを特徴とする請求項１から６のいずれか一項に記載の装置。

【請求項８】

請求項１から７のいずれか一項に記載の装置を有する脊椎手術用のセットであって、前記拡張器（４）の内腔はシリンダ状に構成されている、ことを特徴とするセット。

【請求項９】

請求項１から７のいずれか一項に記載の装置の一部材としての、脊椎手術用の案内スリーブ（３）において、非シリンダ状の外套（３．１）を特徴とする案内スリーブ。

【請求項１０】

互いに対向する２つの前記長辺（３．３、３．４）は、前記長辺（３．３、３．４）を接続する前記短辺（３．５、３．６）の幅よりも大きい幅を有する、ことを特徴とする請求項９に記載の案内スリーブ。

【請求項１１】

前記長辺（３．３、３．４）の一方は平坦である、ことを特徴とする請求項９または１０に記載の案内スリーブ。

【請求項１２】

前記長辺（３．３、３．４）の一方は外に向かって凸状に湾曲しており、１１から１２．５mmの曲率半径（Ｒ）を有する、ことを特徴とする請求項９から１１のいずれか一項に記載の案内スリーブ。

【請求項１３】

前記長辺（３．３、３．４）と短辺（３．５、３．６）との間の移行部の曲率半径は、３から４．５mmの間である、ことを特徴とする請求項９から１２のいずれか一項に記載の案内スリーブ。

【請求項１４】

前記短辺（３．５、３．６）は遠位に、前記長辺（３．３、３．４）を超えて突き出る前記突起（３．７）を有する、ことを特徴とする請求項９から１３のいずれか一項に記載の案内スリーブ。

【請求項１５】

前記突起（３．７）は、前記案内スリーブ（３）の自由端部に向かって先細になっており、前記自由端部において丸められている、ことを特徴とする請求項１４に記載の案内スリーブ。

【請求項１６】

前記短辺（３．５、３．６）は、長辺（３．３、３．４）よりも大きな厚さを有し、前記長辺（３．３、３．４）の厚さは０．８mmから１．２mmであり、および／または短辺（３．５、３．６）の厚さは１．２mmから１．７mm超である、ことを特徴とする請求項９から１５のいずれか一項に記載の案内スリーブ。

【請求項１７】

前記案内スリーブ（３）は、前記案内スリーブ（３）の長手軸に対して垂直に延在する溝（４．２）を、前記案内スリーブ（３）の外側の近位領域の前記短辺（３．５、３．６）に有する、ことを特徴とする請求項９から１６のいずれか一項に記載の案内スリーブ。

【請求項１８】

前記案内スリーブ(3)は、前記案内スリーブ(3)の外側の近位領域の2つの前記短辺(3.5、3.6)に互いに対向する開口部(3.9)を有することを特徴とする、請求項9から17のいずれか一項に記載の案内スリーブ。

【請求項19】

請求項9から請求項18のいずれか一項に記載の案内スリーブ(3)と、前記案内スリーブ(3)によって位置決めされる椎間ケージ(2)とから成る脊椎手術用のセットにおいて、

前記案内スリーブ(3)の内腔は、前記椎間ケージ(2)の最大断面輪郭に適合されている、ことを特徴とするセット。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

さらに好ましい構成では、スリーブおよび/または拡張器は、それらの長手軸に対して横方向に延在する溝を、それらの外側の近位領域に、とりわけそれらの短辺に有する。これらの溝は、指に対して良好な把持を保証するために、または工具をスリーブないし拡張器から引き抜くために用いられる。一発展形態では、近位の歯/エッジ領域に直径方向に対向する開口部が設けられている。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0023

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0023】

上方の長辺3.3は、案内スリーブ3の幅にわたって外に向かい凸状に湾曲して構成されている(すなわち平坦ではない)。上方の長辺の曲率半径は、ここでは12mmである。スリーブは、その近位の外側に横溝3.8と直径方向に対向する壁開口部3.9とを有する。この構成によって執刀医の指ないし工具に対する把持性が改善される。